



- 串間市立図書館 ☎ 72-1177
- 開館 = 午前10時～午後6時
- 休館日 = 毎週月曜日
- HP = <https://www.city.kushima.lg.jp/library/index.html>

新刊情報

- 維新の終曲(岡田 秀文／著)
- 花屋さんが言うことには(山本 幸久／著)
- 刑事弁護士(薬丸 岳／著)
- 古本食堂(原田 ひ香／著)
- 幸村を討て(今村 翔吾／著)
- 時計屋探偵の冒険(大山 誠一郎／著)
- 人面鳥(中山 七里／著)
- 図書室のはこぶね(名取 佐和子／著)

「無明」
今野敏／著



荒川の河川敷で見つかった高校生の水死体を千住署が自殺と断定。遺族は納得せず司法解剖を求めたが、千住署の刑事に断られ、どう喝までされていた。本部捜査一課の樋口は別動で調べ始めるが…。

「はじめての
おり紙ヒコーキ」
戸田 拓夫／著



遠くまで飛ぶ「距離型」、長い時間飛ぶ「滞空型」紙ヒコーキの折り方を紹介。小さな子でも一人で折れるよう、折り方手順、折り図にのせて確認しながら折れる「原寸大折り図」を収録。コピーして使える型紙&QRコード付き。

今月のテーマ展示
「キャンプ」特集



アウトドアの季節です。テントを張って電気もガスも娯楽もない状況で楽しむ食事やお泊りは、日常を忘れ穏やかな気持ちになれます。道具や初心者向けのキャンプ本も特集していますので、始めてみたい方も経験者もぜひ借りにきてください。

図書館員おすすめの本(紹介者:牧野浩)

「花を育ててみたいのですが。」 花福こざる／著

マリーゴールド、ミニシクラメン、アイビー、ラベンダー…。花屋兼漫画家の著者が園芸初心者に向けて、園芸店でよく見かける花、グリーン、ハーブの育て方・楽しみ方をマンガで分かりやすく解説しています。花を植える前にご一読すると枯れにくくなるかも。



地域づくり 豊かな生活を 送るために

皆さまはスーパーへの買い物や病院への通院の際、どのような方法で移動していますか？目的地が近く、徒歩で行ける方や、自分の車で運転して用事を済ませる方がほとんどではないでしょうか。

では、運転免許証を自主返納した高齢者の方や、車をもたない子どもたちが一人で通院したり買い物に行ったりするには、どうやって移動すればよいのでしょうか。

病院やスーパーが多く立地している市内中心部に引っ越してしまえばその問題も解決してしまうのかもしれませんが、そうすると集落の衰退が加速してしまい、住みづらい地区ばかりになってしまいますね。

そこで、各地域の地域連携組織では、移動に関する不便を少しでも解消するための仕組みづくりに取り組み始めています。

本城地区の「まちづくり協議会『チーム本城』」では、宮崎県の事業を活用し、地域住民で運行する交通手段の確保に向けた計画を進めています。また、その計画実施に先駆け、本城地区からJR日南線を利用して市外の高校へ通う生徒の早朝送迎を地域住民で担うための実証実験を、3月中旬に実施しました。この取り組みが継続されれば、地域の子育て世代の負担減につながり、住みやすい本城地区の実現につながっていきます。

都井地区の「都井地区あかり会」では、市内中心部と都井岬の間を毎日運行している

「よかバス都井岬線」を利用して通院や買い物をしている方たちが、よかバスがもっと利用しやすくなるよう、都井支所から自宅への互助輸送のサービスを実験的に行っています。あかり会の会員が地域の見回りを兼ねながら、よかバス利用者を自宅へ送迎します。現在の対象地域は立宇津地区、宮之浦地区となっていますが、これから順次拡大していきたいとのことでしたので、今後の計画に注目です。

市木地区では、3月22日に地域連携組織設立準備委員会が行政や社会福祉協議会などの団体と協働して、スクールバス買い物ツアーを実施しました。このツアーは、昼間使用されていないスクールバスを利用して、参加者と一緒に買い物に行こうというもの。参加者の皆さんは、民生委員や生活支援サポーターの協力のもと、それぞれが助け合いながら買い物を楽しんでいました。買い物だけでなく、地域のみんなが顔を合わせられる機会ができたということで、遠足気分楽しんでいらつしやる方もおられました。

このように、これからも地域で豊かに生活していくために、そこに暮らす人たちが工夫を重ねながらお互いを支えあうことで、移動に限らず多くの地域課題を解決していくことができます。

各地区の地域連携組織では、このような地域課題解決のための取り組みをこれからも少しずつ進めてまいりますので、活動などに「興味がある方は、各支所や市総合政策課までお問い合わせください。」

市長コラム

出会いで咲く 幸せの花

4月に入り、新入生、新入社員の方々が力強く第一歩を進み始めました。うらかな陽気に心躍らせて新たな人生のスタートであります。私も親に手を引いてもらった小学1年生のころや、大きな夢を抱いて社会に飛び出したが世間の厳しさに戸惑った新人時代のことなどを思い出します。いずれも良き先生や先輩方に出会うことができ、人生というドラマを1ページずつ重ねられてきたように思えます。

先日ある新聞のコラムを見て感動しました。コラムは記者が99歳の陽子さんという方へインタビューした内容です。記者が「いつも楽しそうな笑顔ですね」と聞くと、「私の名前は太陽の陽子ですから。いつも『ひまわり』のように笑顔でみ

んなを温かく照らしているの。人間厳しい顔では幸せが逃げますが笑顔は幸せが訪れるのよ」と答え、100歳を迎えられる輝かしい陽子さんの一言に「記者も笑顔になり幸せを感じる」ということでした。陽子さんは戦争という悲惨な時代を経験され、その痛ましい時代を繰り返さないためにも、笑顔を大切にされているのではないのでしょうか。悲しみを乗り越え力強く生きる。ひまわりの花も真夏の太陽に向かって成長して花を咲かせる。

偶然にも先日、子育て支援センター「さくらサロン」が月1回発行している育児情報紙「さくらつつしん」4月号の崎村尚子さんのコラムで、ひまわりの紹介がありました。ひまわりは北アメリカで紀元前1500年ごろからインディアンによつて食用として栽培されていて、それをスペイン人がヨーロッパに持ち帰ったことで世界に広まったそうです。くしくもロシア侵攻で大変な状況にあるウクライナの国花はひまわりで、世界一の生産国だそうです。



地域おこし協力隊 活動日記



未来に つなげよう No.61



甲斐 舞子さん

弥生時代から食べ続けている日本人のソウルフードともいえる大切なお米。和食が世界で注目される一方で、食の多様化により日本でのお米の消費は減り続けています。先祖代々続いた棚田の景色がこれからもずっと日本の風景として見られるように、これからもずっとおいしいお米が食べ続けられるように、「おにぎりから未来を変えよう」という思いから、子どもから大人まで楽しめる食育ワークショップとして「おにぎりキャラバン」を毎月オンラインで開催しています。

おにぎりキャラバンは、農林水産省、消費者庁、環境省の連携による「あふの環プロジェクト」主催で行われた「サステナアワード2020」伝えた日本での「サステナブル」を受賞し、北は北海道、南は宮崎、毎月全国各地からご参加いただいています。

3月のおにぎりキャラバンは、私の担当月でしたので「みやざきスペシャルDAY」として開催させていただきました。串間市では田植えがちょうど始まった時期で

した。松田農産兼松米ランドの松田香里さんにご協力いただき、お米の種まきや田植えの様子を事前に動画撮影させていただいたり、串間市のお米作りの特徴や作業内容、農家さんの想いを取材させていただいたり、お米作りのワイズも考えていただいたり、くしま愛に溢れたイベントにすることができました。

イベント当日の画面の向こう側では、初めて見るお米の種まきの動画を見て盛り上がり、白熱のお米クイズバトルが繰り広げられたり、目をキラキラ輝かせながら好きな具材でおにぎりを作ったり、すぐに口いっぱいにはおぼせて食べちゃう子どもたちの姿にほっこりしたり、北海道の方が外に積もっている雪でおにぎりを作ってみるなを笑顔にしたりと、まるで大家族になったようなオンラインイベントでした。

今後もおにぎりを通して、お米の大切さや手作りのよさ、日本の食文化、誰かと一緒に食べる楽しさなど、たくさんの人たちに広げていきたいと思っています。